

日本脊椎脊髄病学会
平成 23 年度第 1 回学術集会プログラム検討委員会議事録

日 時：平成 23 年 7 月 14 日(金) 7:00-8:00

会 場：京都国際会館 1F「102」

議題

報告事項

1. 第 40 回日本脊椎脊髄病学会 web 開催の報告

参加登録者は 1200 名近くなり、東北三県など無料登録としたが、有料登録者は 1000 名を越えた。最終会計報告は、7 月下旬ないし 8 月初旬になるが、黒字決算の見込みで、100 万円を越える義援金を拠出できそうである。

2. 次年度持ち越し講演について

第 40 回日本脊椎脊髄病学会で企画した講演のうちから 2 件の講演 (Dr. Schwab, Dr. Ruf のランチョンセミナー) と会長講演は、第 41 回日本脊椎脊髄病学会会長永田見生先生のご厚意で、来年度のプログラムに組み込んで戴けることとなった。

3. 演題投稿システムと学会の受付システム

演題登録は UMIN、コングレのシステムを使用した。KCS システムと比較して、安価であり、問題もなかった。学会受付は KCS の日本整形外科学会中規模システムを日本整形外科学会関連 3 学術集会以外では初めての運用を予定し準備した。上手く行きそうであったので、次回以降も検討する価値がある。問題点は、参加者全員が日本整形外科学会会員と限らず、また、日本整形外科学会会員であってもカードを持っていない人がいることである。

4. 委員会・理事会提案シンポジウム・講演の持ち越し

下記 3 件の企画があり本年持ち越しになったため、次年度でも検討する必要があると思われる。

- ・ 脊椎外科の医療保険制度への対応 (川上紀明理事)
- ・ 圧迫骨折の診断基準 (加藤義治教授)
- ・ 慢性疼痛に関する学会主導研究発表 (山下敏彦教授)

5. 継続性を持つテーマ

変性側弯 (第 39 回から)、JOABPEQ & JOACMEQ に関するものは、すでに動いている。変性側弯は指定演者と一般応募演題から企画、JOABPEQ & JOACMEQ は診断評価等基準委員会に企画して戴いた。

審議事項

1. 継続性を持つテーマの検討

変性側弯 (第 39 回から)、JOABPEQ & JOACMEQ に関するものは、すでに動いており、次年度も引きつづき行う予定である。

2. 国際委員会関係

国際委員会から別記（添付資料）の要請がある。内容、国際委員会との相談等については次期永田見生会長に一任となった。本学会における国際性つき検討された。国際とはアジアだけなのか、またアジアとはどの国を指しているのか、米国、欧州なども入れるのか、アジアでももっと広く声をかけるのか、など明確にすべきであるとの意見が多く出された。また、アカデミックな件で招聘するのか、儀礼的招聘なのかで役割分担は異なるかもしれない。インターナショナルセッションの内容について現状でよいのか、委員会で検討して欲しい。

3. プロジェクト研究、委員会・理事会への検討事項の提案

社会の現状を鑑みるに、下記の件に関して学会レベルで検討する必要があるということになった。また、下記を検討するワーキンググループの立ち上げなど提案したい。

1. 高齢化と脊椎の諸問題

増え続ける患者に対する対応（治療）の検討

2. 脊椎の予防医学

予防に勝る医療はなく、これからは我々も予防について考える必要がある。整形外科はこの点に弱い。

3. 難病セッションの定期的設定とプロジェクト研究

治療困難な疾患、特に OPLL, EOS (early onset scoliosis), 髄内腫瘍が挙げられる。

4. 専門医制度

待ったなしに動くべきであり、専認講の考えから脳外科とのすりあわせは無視できないことである。

5. 脊椎手術の全例登録

外科学会等がすでに行っており、種々の観点から脊椎外科でも登録を行うことは大きな意義があると思われる。

その他

○学術集会主演者入会及び参加等について

事務局より資料に基づいて、学術集会発表に伴う入会手続き等に関する問題の提起と要望があり、次のような対応を決定した。

- ① 演者の入会手続き遅延を防ぐため、演題投稿時に1月末日までに入会手続きを完了しない場合は演題取下げとなることを明記する。
- ② 円滑な入会手続きのため、演題投稿画面に非会員は医師か非医師かを届け出るようチェック項目を設ける。
- ③ 学会長は、学会終了後に参加者データ（氏名及び勤務先）を学会事務局に提出する。
- ④ 参加証は指導医申請に提出することとなっているため、参加証自体に「日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医申請時の提出書類となります。再発行はいたしません」と明記する。

記

参考資料

国際委員会からのお願い事項

1. 英語によるポスターセッションをプログラムに導入すること
2. アジアからの招待候補者が学会に参加できるよう検討していただくこと

具体的には教育研修講演や招待講演、英語ポスターセッションの座長という役割を与えていただくことなお招待候補者は以下の通りで、この中から5～6人に絞る予定である

- 1) 韓国の会長 : Choon Sung Lee (Asan Medical Center, University of Ulsan)
- 2) 台湾の会長 : Lih-Huei CHEN (Chang Gung Memorial Hospital, Chang Gung University) osteoporotic spine, vertebroplasty, and osteonecrosis (Kummell)が専門
- 3) Shenglin Wang (Assistant Professor, Peking University Third Hospital) : 毎年フェローを受け入れている北京第3病院の先生で上位頸椎の再建手術が専門
- 4) Luthfi Gatam (Fatmawati General Hospital, Indonesia) : 毎年フェローを受け入れているジャカルタの先生で外傷・変形・変性疾患様々な手術経験
- 5) Arvind Jayaswal (All India Institute of Medical Sciences) : インドの先生で APOA Spine Section, Secretary、脊柱変形が専門
- 6) Jae-Yoon Chung (Chonnam University Medical School) : 毎年フェローを受け入れている韓国の教授
- 7) Keith D K LuK (The University of Hong Kong) : 毎年フェローを受け入れている香港の教授で、よく来日される

以上